

神代高等学校 令和6年度 教科「公民」 科目「政治経済」 年間授業計画

単 位 数：3単位

対象学年組：第4学年A組

使用教科書：高等学校 新政治・経済（第一学習社）

	指導内容	科目「政治経済」の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	第1編 現代の政治 ●人と政治のかかわり 第1章 民主政治の基本原理と日本国憲法 ①政治とは何だろうか？、②民主政治の展開、③人権保障の発達、④議会制民主主義と政治の特質、⑤日本国憲法の成立、⑥日本国憲法の基本原理、⑦平和主義と自衛隊、⑧日本の安全保障、⑨安全保障と日本の防衛、⑩法の下の平等と自由権	政治とはどういう物かを教え、近代政治の基本中の基本である民主政治・議会制民主主義、日本国憲法、日本国憲法と安全保障・防衛問題、法の下の平等と自由権を包括的に相互関係を持たせながら考えていく。	近代政治の基本である民主政治・議会制民主主義の理解がどの位できているかを評価の観点・方法とする。	9
5月	⑪豊かに生きる権利、⑫新しい人権、⑬国会の組織と機能、⑭国会の権限と衆議院の優越、⑮内閣の機構と機能、⑯裁判所の機能と人権保障、⑰地方自治制度と住民の権利、⑱政党政治と圧力団体、⑲日本の選挙制度とその課題、⑳世論と現代政治の課題、中間考査	人権・その他の諸権利、国会、裁判所の機能と人権関係、我が国の選挙制度、現代政治の課題を有機的に結びつけながら考え、併せて主権者教育も行う。	人権という概念、主権者としての自覚がどれだけできているかを評価の観点・方法とする。	13
6月	第2章 現代の国際政治と日本 ①国際社会と国際法、②国際連合の役割と国際協力、③第二次世界大戦後の国際社会、④今日の国際社会、⑤国際政治の特質と国際紛争の諸要因、⑥核兵器の廃絶と軍縮問題、⑦国際平和と日本の役割	現在、複雑化していく国際情勢を鑑み、第二次世界大戦以降の国際政治・国際関係、それらと我が国との関連を有機的に結びつけて考えていく。	今、この瞬間の国際政治・国際関係、それらから派生する諸問題をどれだけ理解しているかを評価の観点・方法とする。	13
7月	第2編 現代の経済 ●人と経済とのかかわり 第1章 現代経済のしくみと特質 ①資本主義経済のしくみとは？②資本主義経済の課題と社会主義経済の変容、③経済主体と経済活動、④市場経済の機能と限界、⑤景気変動と経済成長、期末考査	政治同様、経済とはどういうものかを教え、資本主義経済・市場経済の成立・発展、現在の状況を有機的に考えていく。	資本主義経済・市場経済がどのような概念かを理解できているかを評価の観点・方法とする。	13
8月				
9月	⑥インフレーションとデフレーション、⑦財政のしくみとはたらき、⑧租税と国債、⑨資金の循環と金融政策、⑩日本銀行と金融政策、⑪日本経済の発展、⑫今日の日本経済	いわゆる、インフレとデフレ、税金、国債、資金と金融等経済の中心的な用語の解説と仕組みを包括的に考えていく。	これらの仕組みとしての作用の意味をどれだけ理解しているかを評価の観点・方法とする	14
10月	⑬中小企業と農業、⑭消費者問題、⑮高度情報社会、⑯労働関係の改善、⑰社会保障制度の充実、⑱公害防止と環境保全、⑲地球環境問題、中間考査	現在の経済活動で生じる様々な問題を有機的に理解し、考えていく。	これらの諸問題をどれだけ理解しているかまた、どのような個人的見解を持っているかを評価の観点・方法とする。	14
11月	第2章 国民経済と国際経済 ①国際経済のしくみと現状、②為替相場のしくみ、③国際協調と国際経済機関の役割、④地域的経済統合の動き、⑤経済摩擦問題とグローバル化、⑥国際経済の諸問題と日本の役割	国際化・地球規模化する経済活動とそこで生じる諸問題と我が国の役割を考えていく。	今、現に起きている国際的経済活動がどのような状況か、そこから生じている国際的・人類的規模の問題を理解しているかを評価の観点・方法とする。	14
12月	第3編 現代社会の諸問題 ●現代探求学習の諸課題 第1章 現代日本の政治や経済の諸課題①少子高齢化社会と社会保障、②地域社会の変貌と住民生活、③雇用と労働をめぐる問題、④中小企業問題、⑤農業と食料問題、期末考査	今後の日本社会を駄目にしかねない様々な問題を実例を挙げて考えいく。	これらの諸問題に対してどれだけの関心があるか、生徒各自の問題として意識しているかを評価の観点・方法とする。	14
1月	第2章 国際社会の政治や経済の諸課題①地球環境と資源・エネルギー問題、②国際経済格差の是正、③人種・民族問題と地域紛争、④国際社会における日本の立場と役割、⑤まとめ、学年末考査	第2編第2章と有機的に絡め、復習し現代に解決するには最重要問題であるこれらの諸問題を考えていく。	第3編第1章同様、これらの諸問題に対してどれだけの関心があるか、生徒各自の問題として意識しているかを評価の観点・方法とする。	13
2月	補習・補講	必要な生徒に補習・補講を行う。		3
3月				